

# こども通信

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
漢方内科

上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456

ホームページ  
www.kodomo-  
iin.com



## 新年あけまして

### おめでとー(げい)います。

新しい年が始まりました。今年は「辰年」。竜(龍)の年です。その姿のよつに、力強く、社会が良くなっ

ていくことを期待しています。敗。今に始まったことではなく、何十年もやってきたようです。彼らの中には日本を良くしたいという考えはあるのでしょうか。今だけ、自分だけ。いったい誰のために政治をしているのでしょうか。



現在の社会は、あまりに暗いこと、嫌なことが多いよつに思います。

世界中では戦争がまだ続いています。核戦争の脅威もあります。犠牲になるのは、お年寄り、女性、そして子どもたち。傷つき、殺されていく映像を見ると、心が痛みます。

一刻も早く戦争を止め、武器で他国と争うことのない社会になって欲しいと願うばかりです。

日本国内でも、信じがたいことがおきていました。与党政治家の腐敗。富める者や会社から税を取り、政治も行政も、国民を豊かにすることを、もつ忘れているのでしようか。

## 感染症情報

インフルエンザが大きな流行になりました。秋から始まる流行は珍しく、冬から春にかけて流行が長引くことも懸念されます。十分に注意してください。発症から48時間以内であれば抗ウイルス剤(タミフルなど)が有効です。

一方で医薬品や検査キットの不足が全国でおきていて、思う通りに診療できず、苦慮しています。薬剤の変更などをお願いすることもあるかと思いますが、ご理解ください。

新型コロナウイルス感染症の発生もやや増加傾向です。新たな流行が起きている可能性もありますが、基本的に収束することなく、いつでも、どこでも流行しているものとして対応してください。必要に応じてマスク着用など、これからも感染予防の対応が必要です。

感染性胃腸炎の発生数がやや多くなりました。多くはウイルス感染症で、園や家庭内で集団発生することがあります。乳幼児は脱水や低血糖を起こしやすく、ぐったりしている場合は早急な対応が必要です。

ヒトメタウイルス感染症やマイコプラズマ感染症が目立っています。いずれも気管支炎を起こす感染症です。

溶連菌感染症もやや増加傾向です。咽頭痛と発熱が主な症状です。抗菌薬による治療が必要です。

アデノウイルス性咽頭炎も発生があります。高熱が数日続きますが、対症療法で経過を見ます。伝染力の強い感染症です。

## 今月の予定

### 仕事初めのご案内

1月4日(木)より新年の診療・病児保育を  
始めます。よろしくお願いします。

### 院長・副院長出務

上越市乳幼児健診 24日  
上越有線放送「健康ライフ」23日  
FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」  
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

### 感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～  
上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)  
医院ホームページ内

## 不安要素が解消する？

日本社会は色々な意味で混乱し、低迷し、不安なことが目立っています。医療界も同じです。

新しい年が、それを一挙に払拭できるのか、考えてみたいと思います。

## ●少子化社会の進展

日本は世界でも稀に見る高齢化社会ですが、同時に少子化が一段と進んでいます。

現在の年齢区分別構成比は、65歳以上が28・8%に対して14歳以下は11・8%（2021年）と、すでにとても偏った分布になっています。今後さらにこの偏りは拡大していきます。

出生数のピークは、第2次世界大戦直後の1947年で年間270万人。その後ベビーブームが去り、出生数は次第に減少。2016年に100万人台を割り込み、その後さらに加速。昨年はとうとう72万人ほどになっています。ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあ

るかもしれませんが、それだけで説明はできません。端的に言えば、日本社会に子どもを増やすのが難しくなっているということです。

保育環境を整えるなど、子どもを育てやすくする施策はとられていますが、とても十分ではありません。

大本には若い世代の貧困化があります。子どもを生み、育てることが困難な収入。いやその前に、安定した仕事がなく、結婚すら難しい人たちも少なくありません。年収が少なくなるに連れ、結婚率が下がるのはハッキリしています。

ですので、日本の少子化対策を考へる際には、若年層の年収をどうあげるかがその中心であるべきですが、その議論が進んでいるとは思えません。

さらに、税や社会保険料などの負担もバカにできません。消費税は無収入だとしても、生きていくためには納めざるをえません。

こういった日本の社会を根本から変えることをしない限り、少子化傾向はさらに突き進んでいきます。高齢者もいづれは寿命の壁があり、少

なくなっていくます。日本の人口が減少し、いづれは日本社会の滅亡もあるかもしれません。そんな危機感を持つて欲しいのですが、今の政治や行政の様子からは、残念ですが高望みのようです。

大きな構造の変化が起きる気配はないので、今年も少子化が一層進んでしまうことになるでしょう。

## ●高齢者も負担増

医療保険、介護保険とも、その負担割合がすでに増額されていたり、今後予定されています。介護を受けた時の自己負担も、一定の収入があると増額されます。

一方で年金の支給額は増えず、むしろ若干減少しています。とても十分な額ではない中で暮らしているお年寄りが大勢います。

若年層に対してだけでなく、高齢者に対しても冷たい政治なのだと思ってしまうます。

## ●一部医薬品の自己負担

先月号でもお知らせしましたが、後発品（ジェネリック）のある先発

品を処方した場合に、その差額の一部（4分の1）を自己負担させることを国が決めました。今年中に始まり、後発品の使用をさらに推進し、国の財政負担を少なくするためです。

しかし、後発品の品質に問題があるなど、必要があり先発品を処方する場合があります。さらに、現在はいくつかの医薬品が不足していて、それぞれの騒ぎではありません。

この負担は市町村の医療費助成の対象外ですので、窓口での支払いが必要になります。混乱必死です。

## ●保険証の廃止

12月に保険証が廃止されます。マイナカードと一体化させるためです。1年ほどの間は従来の保険証が使えるようですが、さてどうなるのでしょうか。

乳幼児にマイナカードを取得させるのは簡単ではありません。そもそもマイナカードは任意のもので、誰でも簡単に保険診療が受けられる日本の医療制度が根本から崩れてしまう可能性があります。